

平成27年 千葉県環境講座

今年度も千葉県環境講座では様々な企画を実施してまいりました。
今回は子ども・親子向けに実施した講座の紹介をします。

夏休み 親子で野生の森のアウトドア体験～森で感じる千葉の自然～

●君津市 かずさの森 ●8月7日(金曜日)

「かずさの森」は房総丘陵のほぼ中央、東京湾に注ぐ最大の河川である小櫃川の源流部で、人の住む最後の集落から2Kmも離れているので、周囲は人の気配の全くない山また山の“陸の孤島”、県下の野生の森です。

講座は親子で行く日帰りバスツアー。川に浸かって川魚を素手でつかみとることに挑戦しました。お昼は流しそうめんを自然の中で味わい、とった魚を唐揚げにしてもらっていただきました。自然から命をいただくことでわたしたちが生きていけることを学びました。(協力:かずさの森 <http://www.kazusanomori.com/>)



環境研究センター職員による講座 君の足元の大地の中身(地層や地下水)をのぞいてみよう

●千葉県環境研究センター(稲毛地区) ●8月19日(水曜日)

千葉県環境研究センターの職員による講座でした。環境研究センターの敷地内で地下水をくんで地下水に触れました。夏は冷たく、冬は暖かい地下水。ある程度一定の温度に保たれていることを知りました。学校などでは見たことがない実験機器で地下水の流れや汚水がどのように地下に染みて流れていくのか、その様子を見て勉強することができました。また、液状化現象の実験を通じて地震のときに液状化現象が起きた建物と起きなかった建物とでは被害にどう違うかがあったのかなどを知ることができました。



夏休み 親子で館山湾ウォーキング～海辺で感じる千葉の自然～

●館山市 沖ノ島 ●8月28日(金曜日)

沖ノ島(沖ノ島公園)は、南房総館山湾の南側に位置する高さ12.8m、面積約4.6ha、周囲約1kmの陸続きの小島です。南房総国立公園内のこの島は約8000年前の縄文海中遺跡や世界的に注目されている北限域のサンゴを育む貴重な自然が残る無人島です。

講座は親子で行く日帰りバスツアー。ガイドさん(NPO法人たてやま・海辺の鑑定団所属)の案内で沖ノ島の周辺を歩いてミニ探検に出発。浅瀬では貝殻やカニ、小魚をとって海の生き物を観察。観察が終わったら海に返してあげます。潮風と波の音に包まれながら命の大切さを学びました。

(協力:NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 <http://www.umikan.jp/index.html>)



とれたてちばをおいしくいただき隊! 親子収穫体験キャンプ

●香取市 千葉県立水郷小見川少年自然の家

●10月10日(土)～11日(日)



1泊2日で「土のチカラ」を思う存分体験できるキャンプを開催しました。まずは、有機農法の先駆者の一人である齋藤農園・齋藤完一さんの畑で育ったサツマイモやニンジン^{（注）}を収穫。農薬や化学肥料をいっさい使わず、自作の有機肥料だけを混ぜた土で育てられたおいしい野菜^{（注）}でした。夜は、その齋藤農園の土を使ってペットボトル菜園作り。2リットルのペットボトルを自分で切って、デコレーションして、土を入れたら自分だけのオリジナルペットボトル菜園が完成。齋藤農園でもらったダイコンの種をまいて、育つのを楽しみに持ち帰りました。

翌日は、収穫したサツマイモやニンジンを使って、具沢山の豚汁作り。自分たちでおこした火でご飯も炊いて、スタッフ手作りの段ボールオーブンを^{（注）}使ってスイートポテトも作りました。スーパーで買って用意したニンジンと、自分たちで収穫したニンジンを食べ比べて、子どもたちはそのおいしさに感動。「土のチカラ」を身を持って体験できました。（協力：千葉県立水郷小見川少年自然の家 <http://omigawa.shoppro.co.jp/>）

いつでもどこでもバードウォッチング～ロシアからの冬鳥～

●谷津干潟自然観察センター

●10月25日(日曜日)



公益財団法人日本野鳥の会 主席研究員 安西英明さんによる講義とバードウォッチングを谷津干潟自然観察センターで行いました。秋から冬にかけてロシアから渡ってくる冬鳥の話にとどまらず、宇宙創成から生物多様性にまでお話が及んで参加した子どもたちはもちろん大人も感嘆する楽しい講義になりました。バードウォッチングも鳥の観察にとどまらず鳥の餌になるクモを探したりもしました。また、樹木によって種子のまき方が違うことを教えてもらって、足元にある種子を見つけては先生に質問してました。講座終了後も安西先生を追い掛けて質問に行く子がいて先生も嬉しそうでした。

（協力：谷津干潟自然観察センター <http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/>、日本野鳥の会 <http://www.wbsj.org>）

ミツロウキャンドルをつくろう

●浦安市中央公民館

●11月15日(日曜日)

人間にとって「ハチは危険」と思いがちですが、ハチのおかげで私たちの食生活が成り立っていることを知ってもらおうと企画しました。講師はトウヨウミツバチ協会の高安さやかさん。先生に数種類のハチミツを用意していただき参加者に試食させてもらいました。微妙に味が異なるハチミツを舌に乗せてみなさん真剣に味の違いを確かめていました。講義ではハチの生態から人間との共生関係まで楽しく教えていただきました。

キャンドル作りではミツロウを巻いて作るだけでなく、カップに入れて熱湯で溶かして作ったりしました。仕上げにアロマオイルを数滴垂らして自分だけのオリジナルキャンドルができました。講義に参加した子どもたちからは「これからはハチを大切にします」という声が聞こえてきました。

（協力：トウヨウミツバチ協会 <http://hp-a-00002.x0.com/>）

